十七文字の抒情詩

立冬を過ぎても暖かい日が続いています。
そのせいか紅葉も色を成さないまま枯葉になってしまったり、
どこか自然がおかしくなっている・・そんなこの頃。
人間は自然に対して、もっと真摯な態度で向かい合わなくてはいけないのではないでしょうか？
歳時記を読んでいると、たくさんの美しい季語が過去のものになっていることに気づきます。
寂しい事ですよね。

今回の投句をさっそく拝見しましょう。まず、健さんです。

産み立ての卵の温き小六月

小六月とは小春日と同じ意味の初冬の季語です。厳しい冬の前の暖かい日を言います。
産み立ての卵と季語がとても良いですね。秋ならば温きを言わないで、「掌のうみたて卵小春かな」温かさは想像で・・

しばらくは孫抱くらし今朝の冬

お身体いかがでしょうか?あせらずにゆっくり静養なさってください。
季語が心を表しているようですね。こういう何気ないつぶやきの様な句だからこそ胸に響きます。

続いてうさおさんの句です。

岩元立つ岩に一輪女郎花

岩の間に女郎花が咲いていたのでしょうか、絵になる風景だと思います。

聳えたつ岩まで一気に、そして一輪のとすると女郎花がクローズアップされます。
＊聳えたつ岩一輪の女郎花

法輪も洲藍も彩絵鰯雲

良い句です。全く関連のない季語のようで、しっかり上五中七を盛り上げる鰯雲…言う事ない佳句です。

赤とんぼ止まってみちや描の光

あらら・・童謡に似たような歌詞が・・ユーモアのある句です。これも添削の必要なしですね。

一筋の畑焼く煙秋の径

秋のもの寂しさを感じさせる一句です。ただ畑焼く・・は春の季語なので季重なりになってしまいます。
＊一筋の細き煙や秋の径　　くらいのものでも良いのでは・・

弓を刺す揺を刺すとの肌寒み

意味はよく解りますが、すべてを言い切らなくても読み手に感じてもらう方が良い場合もあります。
＊肩先に裾はらはら肌寒し　　ゆうこ風

健さん、うさおさんありがとうございました。
俳句を詠む気持ちで自然に目をむけると、また違った景色に出会えるような気がしませんか？
次回も力作期待しています。

石蕗咲くや枝わきといふ柳葉

小春日和や淡色多さべビー服　ゆうこ

MERRY CHRISTMAS